



# 石江江渡下町会 ねぶた運行を支援

## 青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑤⑧

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」が7月28日、同校やJR 東日本・新青森駅に近い青森市の「石江江渡下町会」の「地域ねぶた」運行を支援しました。7人の生徒たちは「青西」と記された法被をまとい、暑さに負けず懸命にねぶたや太鼓の台車を引いて、沿道から拍手を浴びていました。

石江江渡下町会は新青森駅の南方に広がる住宅街にあり、2007年から地域ねぶたを運行しています。2023年に初めて、青西おもてなし隊が運行を支援。今年はさらに、制作に携わり、協力の幅が広がりました。ねぶたの題材は「朝比奈三郎義秀 鰐鮫を生け捕る」、長谷川映司さんが制作を担当しました。



当初は7月27日に石江江渡下町会内を、28日に新青森駅一帯をねぶたが運行する予定でしたが、27日は雨のため順延となりました。28日も直前まで豪雨が降る天候でしたが、運行開始前には蒸し暑いながら青空と夕日が見られました。

午後6時、約200人の参加者が新青森駅西方の新城

小学校を出発し、「ラッセラー、ラッセラー！」という掛け声とねぶた囃子とともに、住宅地を練り歩きました。沿道では多くの人が手を振ったり歓声を送ったりして、青森の夏を楽しんでいました。

「ねぶたへの参加は初めて。楽しみです」と話していた山路大翔さん(1年)は、「紙張りなど工程が多く制作が大変だった」という木立拓実さん(1年)、10回近く制作作業に参加した水谷仁美さん(1年)とともに、道幅や車の通行に応じて複雑に進路を切り替えるねぶたの台車の操作を懸命にこなしていました。

制作の統括責任者も務めた同町会囃子会会長の福士和善さんは、「青森西高校の生徒たちのおかげで、1カ月ほどの短い期間でねぶたを完成させることができました。多くの生徒が紙張りから色つけまでの工程を体験し、達成感を抱いてくれたのでは」と振り返っていました。

石江江渡下町会のねぶたは、青西おもてなし隊の生徒たちとともに、8月2日・3日の青森ねぶた祭に出陣し、10日には地元町会を練り歩きました

## 東北新幹線・盛岡支社管内 2023年度駅別利用人員

# 新青森駅が伸び率1位、コロナ禍前の水準超える

JR 東日本盛岡支社はこのほど、2023年度の駅別乗車人員などを公表しました。東北新幹線の駅では盛岡駅が最多で1日平均7,226人、次いで新青森駅が4,636人、そして八戸駅3,202人の順でした。

各駅とも、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった2022年度に比べると、110%台から120%台の数字となりましたが、新青森駅は138.8%と唯一、30%以上の伸びを記録しました。また、新型コロナウ

イルス感染症の影響がなかった2018年度に比べると、ほとんどの駅の利用が戻っていない中で、新青森駅は109.9%と唯一、コロナ禍前の水準を超えていました。

JR 東日本盛岡支社は「昨年度は全体的に新幹線の観光利用が回復したほか、インバウンドのお客さまにも多くご利用いただきました。特に周辺に観光地の多い新青森駅ではその影響が強く出たものと考えられます」と分析しています。

東北新幹線駅別乗車人員

| 順位<br>(2022年度) | 駅名  | 1日平均<br>(人) | 2018<br>年度比 | 2022<br>年度比 |
|----------------|-----|-------------|-------------|-------------|
| 1(1)           | 盛岡  | 7,226       | 92.8%       | 122.3%      |
| 2(2)           | 新青森 | 4,636       | 109.9%      | 138.8%      |
| 3(3)           | 八戸  | 3,202       | 92.0%       | 119.9%      |
| 4(4)           | 一ノ関 | 2,024       | 90.2%       | 117.3%      |
| 5(5)           | 北上  | 1,373       | 96.1%       | 120.9%      |

## 「缶詰王国あおもり」足跡を解説

### 青森県立郷土館 県立図書館で出張ミニ展示

青森市の青森県立郷土館(長期休館中)の出張ミニ展示「缶詰王国あおもり～缶詰の歴史と食文化～」が10月23日(水)まで、同市荒川藤戸の青森県立図書館2階ロビーで開かれています。

農林水産資源に恵まれた青森県は、遅くとも明治20年代(1880年代末以降)、ウニ・ホタテ・ホヤなどの海産物の缶詰が製造・販売されていたらしいといわれています。

その後、マグロやクジラの缶詰が作られ、大正時代には青森市でイワシの缶詰の製造も盛んになりました。さらに、北洋で捕れたサケ・マスが加わり、大正時代末か

らは輸出されるように。見栄えが良く安価だったことから高く評価され、最盛期の1933(昭和8)年には輸出量が21万箱に達して「缶詰の町」「缶詰王国」と呼ばれたそうです。

また、津軽地方では自分で採集した山菜や育てた農作物を「マイ缶詰」にして保存し、親族や知人に配る習慣があり、1980年代には1つの工場に年間3万箱もの依頼があったそうです。



展示は、これらの歴史や特色について、青森県立郷土館や個人が所蔵する実物、パネルなどを通じ、分かりやすく解説しています。

観覧は無料、観覧時間は午前9時から午後5時、休館日は8月22日(木)、9月11日(水)・26日(木)です。

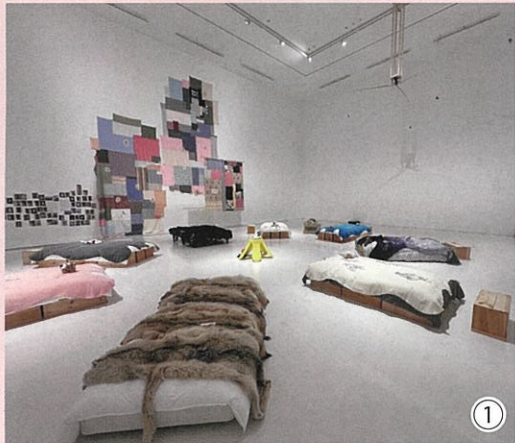
# 「鴻池朋子展 メディシン・インフラ」

青森県立美術館

## 多彩な創作の世界紹介

アーティスト・鴻池朋子の企画展「鴻池朋子展 メディシン・インフラ」が9月29日（日）まで青森県立美術館などで開かれています。作家の絵画や造形、刺しゅう、映像などに加え、つながりがある人々がともに制作したさまざまな作品を展示。自然と風土に根ざした文化と人の営みを創作に取り込んだ、独自の世界を紹介しています。

今回の企画展は、東北各地の民家やカフェに作品を保



管、展示してもらう、企画展と同名の「メディシン・インフラ（薬の道）」プロジェクトをはじめ、近年のいくつかの活動による作品群や記録物を、青森県立美術館と周辺の野外、そして同美術館に近いハンセン病の国立療養所「松丘保養園」の社会交流会館をサテライト会場に展示しています。

青森市や外ヶ浜町の人たちに聞いた話を鴻池が図案化し、それをさらに話し手がランチョンマットに作り上げるプロジェクト「物語るテーブルランナー」の作品群、各地の美術館から集めた車いすを、マルク・シャガールが描いたバレエ「アレコ」の背景画の前で展示使用する「車椅子アレコバレエ」、戦争と眠りをテーマに制作したベッドカバー（写真①）、能登半島地震の被害を受けた石川県珠洲市の仮設住宅に設置するカーテンをつくる「カーテン・プロジェクト」作品など、地域と社会、人のつながりを丸ごと包み込んだような作品と光景が並びます。



各地を旅してきた、牛革にクレヨンで動植物絵を描いた「皮トンビ」（写真②）、秋田県生まれの鴻池が同県北部の山河や生き物をモチーフにした木炭画の新作「メディシン・インフラ・マップ」（写真③）といった作品が存在感を放ちます。

サテライト会場では、松丘保養園に隣接する青森市立新城中学校の美術部員が、鴻池と共同で皮に梵珠山の四季の息遣いを描いた「皮絵」や、同園などの入居者が制作した絵画を見ることができます。

開館時間は9:30～17:00（入館は16:30まで）、社会交流会館は10:00～16:00、8月26日（月）、9月9日（月）・24日（火）は休館、社会交流会館は毎週月曜日。観覧料は美術館が一般1500円、高大生1000円、中学生以下無料、社会交流会館は無料。詳細は二次元コードから。

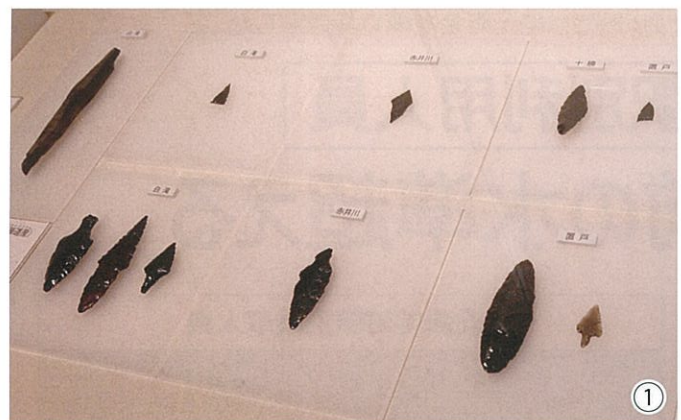


### 三内丸山遺跡

## 北海道と青森 ひとつの文化圏 「海がむすぶ縄文」展

三内丸山遺跡センターの開設5周年記念特別展の第2部「海がむすぶ縄文－津軽海峡と三内丸山－」が9月23日（月・祝）まで同センターで開かれています。海峡を挟んで「ひとつの文化圏」を構成した北海道と青森県について、多くの遺物などを通じて紹介しています。

例えば、黒曜石（写真①）は北海道の四大産地として知られる「白滝」「置戸」「十勝」「赤井川」の黒曜石製の石器がいずれも三内丸山遺跡で出土しており、距離的に最も近い赤井川産の石器が最も多く出土していることが分かっています。一方、長野県・霧ヶ峰産の黒曜石は、



三内丸山遺跡でも見つかり、北海道福島町の館崎遺跡、木古内町の幸連5遺跡などでも出土しています。

これらの黒曜石の流通に役買ったかもしれない、縄文時代前期の丸木舟の一部が野辺地町の向田（18）遺跡で見つかり、展示されています。また、青森市の岩渡小谷（4）遺跡で出土した櫂状木製品、各地で出土した舟形土製品も並んでいます（写真②）。

また、道東の白糠町で見つかった縄文時代早期の「中茶路式土器」に似た特徴の土器が、青森県東通村の前坂下（13）遺跡で見つかっています（写真③）。一方、縄



文時代後期後半に東北地方で、土器に「貼瘤文」という粘土粒を張り付ける装飾が流行しましたが、北海道ではそれに加えて、土器の内側を棒で突いて瘤（突起）をつくる「突瘤文」という手法が用いられました。そして、この北海道独自の特徴が加わった形式の土器が、下北半島や津軽半島でも出土しています。

観覧時間は9:00から18:00まで（入館は閉館30分前まで）、観覧料は一般900円、高校生・大学生450円、中学生以下は無料です。8月26日（月）は休館。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）  
（GWと6月1日～9月30日は18:00）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日  
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／  
中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金。展示内容により変更場合があります。  
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。  
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305  
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365  
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

### 縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）  
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。

観覧料 一般900円（700円）／高校・大学生500円（400円）／  
小学生・中学生100円（80円）  
※（ ）内は20名以上の団体料金およびAOMORI GOKAN アートフェス 2024  
公式ガイドブック特典「スタンプラリー&パスポート」提示割引料金  
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料  
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185  
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244  
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分  
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見を寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部  
楳引素夫 電話 017-738-2001 内線 731  
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

